

## 平成 27 年度 学校経営計画および学校評価

## 1 めざす学校像

- 泉州地域の方々に本校があって良かったと心から言ってもらえるような「地域の星」となる人材を輩出していく。「地域の星」とは学力のみならず、人間力（公共心、道徳心）、コミュニケーション力、活動力がバランスの取れた人材のことをいう。
- 設立当初に制定された校訓「真摯、闊達、友愛」と、東日本大震災を機に定められた久米田三則「挨拶、礼節、親切」を目標とし、人間性溢れる人材を育てていく。
- 「地域の星となる人材」とは、教員、医療関係従事者（看護師、臨床検査技師等）、公務員（役所、警察官、消防士等）、弁護士、会計士、地元産業等、泉州地域に親しみ明日の泉州を担う人材のことである。
1. 公立高校として、知・徳・体のバランスを大切にし、将来、地域の核となる人材を育成する。
  2. 経済的・家庭的に様々な生徒に対応できる公立高校組織を自覚する。
  3. 「共生推進教室」が設置されている意義を大切にす。
  4. 地域の核となる高校として、外部から評価される実績を挙げていく。

## 2 中期的目標

## ※ 「学校改革DNAの伝承と発展」

「地域に光る公立高校」という明確なコンセプトをさし示し、「学力、コミュニケーション、活動力」の3つを伸ばす。また、「文武両道」を提唱し「学力、部活動、学校行事」の3つを充実させるという方針は、多くの教職員の共感を得て、実践し、発展してきた。ここ数年は、旧4地区の中でも有数の人気校となり、学校説明会においても学校見学会においても多くの中学生希望者見学を受け入れられるようになった。これらは、H17年度に定員割れを起こした反省に基づき、制服変更、コース制実施、レインボープラン（自習室、学習クラブ、学習合宿、土曜講座、学力学習習慣診断テスト、夢設計手帳実施、オーストラリア語学研修）実施など、多様な取り組みを実施してきたことによる。毎年、教員定員の4分の1の約15名が人事異動で入れ替わる中で、これらのコンセプトを伝承し発展させていくことが重要である。

1. 学力の育成と授業力の伸長を発展させる。－生徒授業評価から教員相互による授業力向上支援へと発展させる－
  - (1) 生徒の変化に応じた授業を構築し、授業満足度を増大させる。
  - (2) 生徒と保護者の希望の双方を満足させることのできる授業を目指すとともに教員の授業力の向上を図る。
    - ※ 学校教育自己診断による「授業がわかりやすく、楽しく役立っている」を平成28年度には75%以上（H24度56%、H25度69%）
    - ※ 学校教育自己診断による「教え方に様々な工夫をしている先生方が多い」を平成28年度には70%以上（H24度62%、H26度82%）
  - (3) 教員相互の努力により授業力を伸長させる。
  - (4) 「地域に光る公立高校」というコンセプトに基づき、本校の「教育方針や教育内容」を地域・保護者の人たちに広く発信する。
2. 安全で安心な学校づくりを発展させる。－生徒自らが規律の大切さを理解し、社会的規範を大切にす生徒を育てる－
  - (1) 生徒指導、教育相談等を組織的に展開し、基本的には全員卒業をめざす。
    - ・年間特別指導件数を10件未満とする。
    - ・平成22年度より実施している組織的登校指導を継続する。
    - ・時間を守る規律指導を徹底し、生徒一人当たりの年間遅刻件数4件以内を目標とする。
  - (2) 在籍定員960名に対して、常時、950名以上の在籍者があるように努力する。（H26末在籍者958人、共生推進コース9人）
  - (3) 学校生活を充実させ、豊かな人間性を育む。
    - ・ライフサポート室や「高校生活支援カード」を効果的に運用していく。
    - ・クラブ入部率を増大させる。
    - ・生徒会活動を活性化させるとともに参画を支援する。
  - (4) より安全で快適な教育環境を実現するため、学校施設・設備の整備と改善を図る。
3. 目的意識を明確に持った進路指導ができるようにする。－自ら考え、自らの意志で将来を考える生徒を育てる－
  - (1) 「総合的な学習の時間」および「LHR」等を有機的に展開し、「キャリア教育」、「人権教育」、「志学」を総合的に行う。
    - ・平成25年度から導入した「生徒用スケジュール手帳（夢設計）」を積極的に活用する。
  - (2) 自ら主体的に調査活動を行い、周りの人の前で自分の将来目標をはっきり語れる生徒を育成する。
  - (3) 情報化・高齢化・国際化に対応し、主体的に生きていくことの出来る力を育成する。
    - ・ICT機器を活用した授業を実践し、情報化社会に対応した適応力を身につけさせる。
    - ・海外修学旅行や海外語学研修を通じて、国際化社会に適用する人材を育成する。
  - (4) 「共生推進教室」においては、一般生徒と「共に学び、ともに育つ」を一層推進し、人間性・社会性を成長させることにより、共生生徒全員の就職をめざす。（H24度：全員就職、H25度：全員就職、H26度：全員就職）
  - (5) 平成28年度には、国公立大学・難関私立大学10人以上、中堅私立大学60人以上をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○「学力の育成と授業伸長」を課題して取り組んできた。「授業が わかりやすく、楽しい」が 63%、「授業内容は難しいが進路実現に役立つ」が 73%となっている。「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」は 89%となった。6 月に実施した「学校経営推進費で整備された ICT 機器を活用した公開研究授業大会」以降、教員全体に ICT 活用が広がった。「分かりやすい授業」を望む生徒が 39%と一番多いが、「人間性や社会性を養ってくれる授業」「進路実現のための学力を高めてくれる授業」を望む生徒が、相当数（それぞれ 30 %、29 %）いる。教員、保護者は「進路実現のための学力をたかめる授業」を望んでいるに対して生徒の要望は多岐にわたっており、更に授業を工夫しなければならない。また、家庭での学習時間がきわめて少ない生徒は徐々に減ってきてはいる（H25 年 38%、H26 年 34%、H27 年 31%）が継続的に取り組み、更なる改善が必要である。</p> <p>○「安全で安心な学校づくり」は、85 %の生徒が「学校に行くのが楽しい」94 %の生徒が「行事が楽しい」と回答しており、学校全体での創意工夫結果と言える。「学校施設・設備はほぼ満足できる」は 76 %、「気軽に相談できる先生がいる 63%と目標を達成しているが、継続的に取り組んでいきたい。</p> <p>○「授業内容を他教科と話し合う」や「授業見学や授業方法の意見交換」の評価が低い、学校基本問題研修を年 2 回実施し、教科を越えて校内問題を共通理解するよう努めている。また、「ICT 機器を活用した公開研究授業大会」に組み、学校全体に ICT 活用が広がった。来年度も 6 月 23 日の学校基本問題研修で公開授業を行い、個々の先生方の取り組みが、学校全体の取り組みに広がるように継続的に取り組んでいきたい。</p>	<p>第 1 回 (H27.6.12)</p> <p>○平成 26 年度 学校経営報告について ①進学については関西の有名私大の合格者大幅増加。以前に比べ指定校、推薦に頼らず一般（年明け）まで頑張れる生徒が増えた。 ②公務員数が多い（先輩の進路の影響）。</p> <p>○平成 27 年度 学校経営計画について ①達成した数字を下げないよう現状維持 ②学校の取り組み、企画には反応あり。自ら計画的にチャレンジする能力が必要。 ③意志覚悟を持たせる時期が久米田は少し遅い。学力は高くなっている。「生き方」指導も含めてタイミングを今一度見直す時期に来ている。</p> <p>○現状と課題 ①メロディチャイムについては肯定的意見が多い。 ②実力テストの上位者揭示は動機付け、意識付けとしては有効…揭示方法に工夫必要。 ③進学希望者クラスを作ることにについては、学力面で伸びつつある生徒のポテンシャルを引き出せる久米田らしいコース作りの時期かも？</p> <p>第 2 回 (H27.10.16)</p> <p>○平成 27 年度の取り組みと進捗状況について（報告） ①メロディチャイム…各学期一週間程度使用 ②学校 ICT 公開研究授業…外部からの参加 50 名、教科ごとの班協議も熱心に行われ盛大なものとなる。 ③部活動等の報告…（ダンス部全国高等学校ダンス部選手権優勝、太鼓部台湾遠征、卓球部近畿大会出場 等）各部とも、積極的に取り組み、久米田高校を活気づけてくれている。</p> <p>○平成 28 年度 学校経営に向けて ①平成 28 年度入学者選抜制度への対応と状況について…1 回入試、5 教科受験+自己申告書、アドミッションポリシーと変化の多い入試となる。 ②平成 28 年度共生推進教室への対応について…近年、他校設置校定員割れ、本校においても地元岸和田市からの希望者がいない。地域のつながりを通しての PR 活動に取り組んでいく。</p> <p>第 3 回 (H28.1.22)</p> <p>○座長挨拶「近年の久米田高校の取り組みや、発展を見ていると、久米田高校には伸び代があるということが非常に良くわかる。これは非常に良いことであり、それを伸ばしていくことが、この場の役割である。」</p> <p>○平成 27 年度学校評価基礎資料について（報告）①生徒に進路に対する意識の変化が見られる。（安易に指定校、推薦に流れず、一般入試まで頑張る生徒の増加）②共生については、岸和田市からの入学希望者がいないのが当面の課題。③生徒アンケートにおいて「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」が非常に高い評価。クラブ加入率の高さも含め教員側が積極的に取り組んでいる。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の育成と授業力の伸長	<p>(1) 生徒の変化に応じた授業を構築し、授業満足度を増大させる。</p> <p>(2) 生徒と保護者の希望の双方を満足させることのできる授業をめざすとともに教員の授業力の向上を図る。</p> <p>(3) 教員相互の努力により授業力を伸長させる。</p> <p>(4) 「地域に光る公立高校」というコンセプトに基づき、本校の「教育方針や教育内容」を地域・保護者の人たちに広く発信する。</p>	<p>【わかる授業、更に改善された授業】</p> <p>(1) 7月の授業アンケートに基づき改善の方向性を出し、授業改善、12月の授業アンケートで是正状況を点検する。学校教育自己診断では、授業満足度の経年変化を見る。</p> <p>(2) H26年度「学校経営推進」認定校に選出されICT機材を展開教室に整備した。H27年度は、ICT機材をタブレット端末とリンクさせ、生徒の声が簡便に表現できるシステム構築に努める。 平成26年度に設置されたプロジェクター、書画カメラ等を使って、6月25日に「学校経営推進研究大会」を実施する。</p> <p>(3) 教育力の維持のための教員研修を充実させる。学校基本問題研修を年2回実施する。</p> <p>(4) 新入試制度の変更に伴い、地域・保護者の人たちに学校教育内容等を紹介する冊子を作製し配布する。 新入試制度用コンピュータソフトを更新する。</p>	<p>(1) 「授業がわかりやすく進路実現や日常生活に役立っている」70%以上の維持。(H26度：70%)</p> <p>(2) 「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」を65%の維持(H26度：77%)</p> <p>(3) 研修を年7回以上実施。教員アンケート評価80点以上だったか。(H26度：平均83点)</p> <p>(4) 学校内パンフレットの印刷部数。 ソフトを更新できたか。</p>	<p>(1) 「授業がわかりやすく楽しい」63%、「授業内容は難しいが進路実現に役立つ」73%を双方勘案し達成(○)</p> <p>(2) 「教え方に様々な工夫をしている先生が多い」が89%と高度達成(◎)</p> <p>(3) 1月までに教員研修を8回実施、アンケート平均86点で達成(○)</p> <p>(4) 久米田カード(名刺大裏表)を1万部印刷し高石市以南の中学3年生に配付。一般入学者選抜志願者数442名で倍率1.38倍となり堺以南府立22校中第2位で高度達成(◎)</p>
2 安全で安心な学校作り	<p>(1) 生徒指導、教育相談等を組織的に展開し、基本的には全員卒業をめざす。</p> <p>(2) 在籍定員960名に対して、常時、950名以上の在籍者があるように努力する。</p> <p>(3) 学校生活を充実させ、豊かな人間性を育む。</p> <p>(4) より安全で快適な教育環境を実現するため、学校施設・設備の整備と改善を図る。</p>	<p>【充実した快適で楽しい学校生活】</p> <p>(1) 特別指導件数10件未満を目標とし、皆が気持ちよく規律を守れる学校作りを行う。教育相談等を通じて生徒・保護者の状況を的確に把握し、皆が進級・卒業できる学校作りを実施する。「遅刻指導」「ベル着指導」を合理的に合わせ、遅刻件数の低減を実現する。清掃と美化にも取り組み気持ちよく学校生活を送れるように努める。</p> <p>(2) 「久米田カード」を活用し、当校への志願者数の増大を図るとともに、快適で充実した学校生活を実現し中途退学者が出ないように努める。</p> <p>(3) 新入生の入部について、「部活動勧誘冊子」に改善を加え、4月～5月の一学年の呼びかけで、入部者を拡大する。 前年度設置した、「ライフサポート室」を効果的に運用するとともに、本校で充実化した「高校生活支援カード」を適正に運用し、「クラス開き」へとつなげていく。</p> <p>(4) 温水シャワートイレは各階に整備完了。校舎を安全で美しく保つために、廊下、階段及びトイレの整備及び清掃方法を検討する。</p>	<p>(1) ア 特別指導件数10件未満(H26度：5件) イ 生徒一人当たり平均遅刻件数を4件未満となるよう努める。(H26度：2.5件)</p> <p>(2) 960名定員中、950名以上の在籍を維持。(H26：957人)</p> <p>(3) 4月当初に1年生体験入部を実施し、クラブ体験実施後の入部率60%以上をめざす。(H26度：69%) 「高校生活支援カード」を適切に運用し、入学生の把握に役立つことができたか。「ライフサポート室」を機能的に運用することができたか。「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる。」を60%以上めざす。(H26度：64%)</p> <p>(4) 廊下、階及びトイレの更なる整備及び、安全でより美しい校舎を実現する。「学校の施設・設備は、ほぼ満足できる。」を60%以上めざす。(H26度：65%)</p>	<p>(1) ア 特別指導件数5件で高度達成(◎) イ 平成27年度末現在、生徒一人あたり遅刻件数2.0件であり、一人あたり4件未満を高度達成した。(◎)</p> <p>(2) 共生生徒あわせて969名定員の所965名(960名定員の所954名)在籍。</p> <p>(3) 部活入部率は70%で達成(○) 「高校生活支援カード」で把握することができ「ライフサポート室」を機能的に活用することができた。 「担任の先生外に気軽に相談できる先生がいる」63%で達成(○)</p> <p>(4) 「学校の施設・設備は、ほぼ満足できる。」は76%で大幅達成(◎)</p>
3 目的意識を明確に持った進路指導。	<p>(1) 「総合的な学習の時間」および「LHR」等を有機的に展開し、「キャリア教育」、「人権教育」、「志学」を総合的に行う。</p> <p>(2) 自ら主体的に調査活動を行い、周りの人の前で自分の将来目標をはっきり語れる生徒を育成する。</p> <p>(3) 情報化・高齢化・国際化に対応し、主体的に生きていくことの出来る力を育成する。</p> <p>(4) 「共生推進教室」においては、一般生徒と「共に学び、ともに育つ」を一層推進し、人間性・社会性を成長させることにより、共生生徒全員の就職をめざす。</p> <p>(5) 平成28年度には、国公立大学・難関私立大学10人以上、中堅私立大学60人以上をめざす。</p>	<p>【自分の将来を見つけ、実現への道筋発見】</p> <p>(1) H25に導入した「スケジュール手帳」は継続。1年秋の自分の将来を語る1分間スピーチ、1年冬のグループ毎の調べもの学習に続く、2年の学習内容を研究する。</p> <p>(2) NPO法人久米田フレンドシップによる進路説明会は継続。「学力生活実態調査」に引き続き「基礎学力調査」「教育産業による学力分析システム」を導入し有効利用する。</p> <p>(3) マレーシア(コナキタバル)への海外修学旅行を実施する。 オーストラリア海外語学研修を実施する。</p> <p>(4) 社会の構成員としての知識・経験を身につかせ、「共生推進教室4期生(3年生)」の全員の就職をめざす。</p> <p>(5) 進路結果が、生徒の目標を達成できるように努力する。</p>	<p>(1) 総学LHR志学委員会の研究結果H25より「スケジュール手帳」の継続使用。1年の発表大会を継続し、2年で総学の有意義な活用が行われたか。</p> <p>(2) H26年度公務員等の就職に効果を発揮したNPO主催の進路説明会を継続できたか。「基礎学力調査」「教育産業による学力分析システム」を導入し有効利用することが出来たか。</p> <p>(3) 修学旅行は36期生全員の参加をめざす。 海外語学研修は15名以上の参加をめざす。</p> <p>(4) 「共生推進教室4期生の全員就職」の実現。</p> <p>(5) 国公立大学・難関私立大学で10人以上、中堅私立大学40人以上、看護専門学校10人以上、公務員等10人以上めざす。</p>	<p>(1) スケジュール手帳はH27年度も継続使用、1年発表大会は1月28日実施。3年間の「総学LHR志学」全般について3年生からアンケート実施。発表大会良かった76%、手帳で忘れ物減った・宿題するようになった63%(○)</p> <p>(2) NPO主催の「先輩に聞く」が効果を発揮し、本年度も数多くの公務員合格を出す。詳しくは、本校HPに掲載。(○)</p> <p>(3) 修学旅行は7名の不参加者。帰りの便が遅れる等の事象があったが、修学旅行参加者全員無事に帰国。「遠足・文化祭・体育祭・修学旅行等は楽しく行えるよう工夫されている」は94%(○)、語学研修参加者は2年連続して20名を超える。(◎)</p> <p>(4) 4期生全員の就職内定(○)</p> <p>(5) 大阪府大1、関大22、同志社大5、関西学院大5、立命館大2、武庫女大4、近大103、関西外大28、国家Ⅲ種5、大阪府警4、消防官8合格(○)</p>